

Lesson 10 「名詞③」

ねらい

動物を表す語のつづりと発音を理解させる。
〈動詞+名詞〉の語順に慣れさせる。

※単語編Book①Lesson 7のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L9 ① (021) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンプリンク) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L10 ①④ (025) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンプリンク) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L10 ①② (026) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人 (順番) とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「bird」 生徒「鳥」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って Lesson7, 8 の要領で先生の英語の間違いを直させてもよいでしょう。(例 先生「[コアラのカードを見せて] Panda?」 生徒「No. Koala.」)
15分	L10 ② の 1 (have a dog) ～ 4 (like rabbits very much) について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 動詞 have, want, like の意味を説明し、動詞が変わっても〈動詞+名詞〉の語順であることを確認させます。 各生徒に、①④と②から単語を選ばせて、〈have か want + a + 名詞【単数形】〉か〈like + 名詞【複数形】 + (very much)〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。 たとえば、先生が1の dog を cat にかえて「have a cat」と言い、生徒に「have a cat」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に単語を選ばせて発音 [発表] させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈×a+birds〉のように複数形に a をつけてしまったり、単数形に a がついていなかったりした場合は、「a はいらないよ!」「a をつけようね!」のように言って、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えた単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒が have a dog と言ったあとに、先生が cat のカードを示し、生徒に have a cat と言わせます。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組ませ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 11 「名詞・形容詞②」

ねらい

数を表す語のつづりと発音を理解させる。
名詞の複数形に慣れさせる。

※単語編Book①Lesson 8のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L10 ①④ (025) と ⑤ (026) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L11 ①④ (027) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L11 ①⑤ (028) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人(順番)とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「one」 生徒「1」) ・余裕があれば、先生が任意の数字や教場の電話番号等をボードに書いて生徒に言わせたり、10からカウントダウンさせたりしてもよいでしょう。0は未習なので、zero[ズイロウ]と発音することを説明しましょう。
15分	L11 ②の1 (one box) ～ 4 (have four cats) について、最初に先生が発音し、次に生徒が発音させます。 〈one + 名詞【単数形】〉と〈two/three, … ten + 名詞【複数形】〉という単語の並べ方を説明し、単数形と複数形の使い分けを確認させます。 各生徒に、①④と⑤から数を表す語と水色の枠の語【名詞】を選ばせて、〈数を表す語 + 名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 余裕があれば 、前に want か have をつけて 〈want/have + 数を表す語 + 名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。たとえば、先生が1の box を guitar にかえて「one guitar」と言い、生徒に「one guitar」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に数詞と名詞を1つずつ選ばせて発音[発表]させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈one+ ×名詞の複数形〉や〈two以上+ ×名詞の単数形〉のように組合せを間違えてしまった場合は、「sはいらないよ!」「sをつけようね!」のように言って、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えた単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒が want three rackets と言ったあとに、先生が four のカードを示し、生徒に want four rackets と言わせます。
5分 (まとめ)	㉞ (クイズ) に取り組ませ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉞ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 12 「名詞④」

ねらい

身につけるもの・学用品を表す語のつづりと発音を理解させる。
名詞の単数形と複数形の使い分けの理解を深めさせる。

※単語編Book①Lesson 9のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L11 ①④ (027) と ② (028) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L12 ①④ (029) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → マンブリング→発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L12 ①④ (030) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人(順番)とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「bag」 生徒「かばん」)
15分	L12 ②の1 (red shoes)～4 (want a notebook) について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 〈a[an] (+形容詞) + 名詞【単数形】〉と〈two[three, … ten] + 名詞【複数形】〉という単語の並べ方と、単数形と複数形の使い分けを確認させます。 an は「Englishの前ではanを使います」と説明します。 pensは初出なので、発音 [penz] をしっかり説明します。 各生徒に、①④と②から紫色の枠の語【形容詞】と水色の枠の語【名詞】を選ばせて、〈色を表す語 + shoes〉〈have + 数を表す語 + pens〉〈want a + 名詞【単数形】〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。たとえば、先生が1のredをblackにかえて「black shoes」と言い、生徒に「black shoes」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に数詞と名詞を1つずつ選ばせて発音【発表】させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈one + ×名詞の複数形〉や〈two以上 + ×名詞の単数形〉のように組合せを間違えてしまった場合は、「sはいらないよ!」「sをつけようね!」のように言って、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がボードにaと1～5の数字を書いておき、言わせたい単語を指して生徒に言わせましょう。たとえば、生徒がhave three pensと言ったあとに、先生が5を指し、生徒にhave five pensと言わせます。ときどきaと1を指して、生徒にhave a[one] penと単数形に変えて言わせます。
5分 (まとめ)	㉞ (クイズ) に取り組ませ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉞ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

第13回

Lesson 13 「あなたは犬が好き
ですか」

ねらい

好きなものや好きではないものを伝えたり、たずねたり答えたりできるようにする。

※会話編Book①Lesson 7のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L12 ① (029) と ② (030) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
10分	L13 ① (031) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・発音練習は一斉 (1文ずつ→1発言 [セリフ] ずつ) → グループ (半分サム役, 半分エイミー役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。
15分	L13 ② (032) と ③ (033) でロールプレイング練習をさせます。 最初に先生が見本を示し (②でエイミーのセリフ, ③でサムのセリフを言う), 次に生徒に行かせます (一斉)。何度か繰り返して暗記できたら, 先生と生徒, 隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを見ながら行わせ, 慣れてきたら, テキストを閉じて暗唱させましょう。 ・ペアワークでは, Sam と Amy のところを相手の名前に変えさせましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。
10分	L13 ④ (034) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 ①と②について, 発音練習をさせます。その後, 先生と生徒, 隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・次に音声を聞きながらテキストでつづりを確認させましょう。 ・①と②の発音練習は一斉 (1文→1発言 [セリフ] → 対話) → グループ (半分サム役, 半分エイミー役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組みせ, 答え合わせをします。 答え合わせのときは, 最初に先生が選択肢を発音し, 次に生徒に発音させて, 意味を確認させます。 宿題 ①～④の音声を聞いて, 聞いた曜日に○をつけてくること	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は, L13 ② (p.30) に Oh, <u>do you like</u> dogs, Amy? と I like cats. が, L9 ② (p.22) に <u>What do you want?</u> と L9 ④ (p.23) に What do you like? があることを教えて, 正解を見つけさせましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。